

令和 3 年 5 月 10 日現在

機関番号：10102

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K13899

研究課題名(和文)人々の自由意志概念の再構築：ウェルビーイングの向上に向けて

研究課題名(英文)Reconstructing the people's concept of free will: For the contribution to well-being

研究代表者

渡辺 匠 (Watanabe, Takumi)

北海道教育大学・IRセンター・准教授

研究者番号：80759514

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：自由意志信念(「自由意志は存在する」という信念)はわれわれの社会生活でどのような機能を果たしているのだろうか。本研究はまず、自由意志信念が人々のウェルビーイングを促進する効果をもつことを示している。それに対して、決定論に関する信念は自由意志信念やウェルビーイングを抑制する効果があった。ただし、これらの抑制効果は一貫して観察されたわけではなく、決定論の種類等の条件によって変化することが示唆されている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

過去の研究では、「人々にとって自由意志が何を意味するか」が明らかになっている。それらの知見をふまえて、本研究は自由意志信念がもたらす機能(ウェルビーイングの促進)や、それらの機能が働かない条件(決定論/運命論に関する信念)を実証的に示した。ただし、後者の条件に関する知見は再現性に課題があり、決定論に関する人々の概念分析の必要性が示唆される。また自由意志や決定論にまつわる人々の信念体系は、かならずしも一貫してはいない可能性も指摘できるだろう。以上のように、本研究は自由意志信念の機能について理解を深めるとともに、そこで課題を示した点で意義があると考えられる。

研究成果の概要(英文)：What functions do free will beliefs (beliefs that free will exists) have in our social life? The present research found that people's belief in free will increases a sense of well-being. On the other hand, belief in determinism has effects of decreasing a sense of well-being. These effects, however, were not consistently observed, and they were suggested to vary depending on conditions such as types of determinism.

研究分野：社会心理学

キーワード：自由意志信念

## 1. 研究開始当初の背景

自由意志の信念はわれわれの社会生活において、どのような機能を果たしているのだろうか。過去の研究では、「自由意志は存在する」という信念が強いほど、自己コントロール（衝動的反応の抑制）や道徳的責任の帰属、社会への適合が促進されることが示唆されている。その結果、「自由意志は存在する」と思う人は集団のなかで協調して生活できるならば、個人のウェルビーイングは向上すると予測できる。つまり、自由意志信念は個人のウェルビーイングを向上させるだろう。実際に、自由意志信念が強い人ほどウェルビーイングは高いことが確認されているが（e.g., Baumeister et al., 2012）、こうした研究は研究者が理論的に仮定した自由意志概念にもとづく質問項目を使用している。それに対して、報告者は人々の間で共有されている自由意志概念を経験的に抽出し、人々の素朴な自由意志概念にもとづく信念尺度を構築した。本研究はこれらの成果にもとづきつつ、自由意志信念とウェルビーイングの関係を捉えなおすものである。

## 2. 研究の目的

まずは素朴な自由意志信念尺度を使用して、自由意志信念とウェルビーイングとの関係について、あらためて検証をおこなう。そしてそのうえで、決定論に関する信念が自由意志信念やウェルビーイングに対してどのような影響を与えるのかを分析する。先行研究では、「すべての出来事に原因がある」という決定論の考えにより、自由意志信念が低下することが示されている。もしそうであるならば、決定論の考えは自由意志信念の低下を通じて、個人のウェルビーイングを低下させると予測できるだろう。本研究はこのような決定論による影響を検討するとともに、仮に決定論が自由意志信念やウェルビーイングを低下させるとするならば、それをどのように抑制できるかもあわせて分析する。以上のことから、本研究は個人のウェルビーイングの維持・向上という観点から、自由意志信念の機能に関して決定論の影響もふくめた包括的な検討をおこなうこととする。

## 3. 研究の方法

各研究は大学生もしくは一般成人を対象とし、質問紙もしくはインターネットを通じて調査・実験をおこなっている。自由意志信念の測定では、これまでの研究課題（研究活動スタート支援自由意志信念の構造と機能を説明する実証的モデルの確立; 15H06124）で作成した自由意志信念尺度（他行為可能性、行為者性、制約からの自由の3因子から構成されている）を使用し、ウェルビーイングの測定では、日本語版 Satisfaction With Life Scale（角野, 1994）などを使用した。また、（因果的）決定論や運命論の測定では、以下のように、新たな項目を作成して分析に利用した。なお、これらの項目作成の際は決定論や運命論に関する哲学理論を参照しているものの、人々の素朴概念にもとづいている（e.g., 自由記述等で決定論に関する人々の概念理解を尋ねた）わけではない。そのため、（因果的）決定論や運命論に関する項目は人々の素朴な概念でなく、研究者の理論的な概念を測定していた可能性も考えられる。

### ・（因果的）決定論の項目例

1. わたしたちの行動は先行する出来事や現在の状態によって決定される
2. 人間の行動は先立つ要因により支配されている
3. われわれの行動をふくめ、すべての現象にはそれに先立つ原因がある
4. 先立つ要因が完全に同一であれば、必然的に同じ行動が生じる
5. 先行するあらゆる条件がその後の行動を決定している

### ・運命論の項目例

1. そのときの思考や欲求が変化しても、実際におこなう行動は変化しない
2. どんな意志を抱いても、最終的な行動は同一になる
3. 自分自身の心の状態にかかわらず、同一の行動が生起する
4. 本人の動機が変わっても、特定の行動がかならず生じる
5. もしその人の信念が変化しても、実際の行動は変わらない

#### 4．研究成果

まず自由意志信念とウェルビーイングの関係について、理論的な自由意志信念の尺度でなく、素朴な自由意志信念の尺度を使用して分析した結果、両者の間には正の相関関係が観察された。そのため、予測と一致して、自由意志信念は個人のウェルビーイングを促進する機能をもつことが示唆されている。さらに、自由意志信念と決定論の信念やウェルビーイングとの関係性を分析したところ、決定論を信じる人ほどウェルビーイングが低下すること、またこれらの効果は自由意志信念の低下によって部分的に媒介されることが示された。つまり、決定論を信じると、自由意志信念が低下し、それが一つの理由となって、ウェルビーイングが低下しようと考えられよう。ただし、このような関係性は一貫して観察されたわけではない。そのため、当初の予測と異なり、決定論の信念は自由意志信念の低下を通して、ウェルビーイングを抑制させるとはかぎらないことが示唆される。

それでは、どのような条件下で、決定論の信念は自由意志信念やウェルビーイングを低下させるのだろうか。この点について検討をした結果、運命論など、「どのような行動をとっても結果は同一になる」という信念が強いとウェルビーイングは低下するのに対して、因果的決定論など、「過去の出来事が現在の出来事を決定する」という信念が強くてもウェルビーイングは低下しない傾向が観察された。運命論と決定論は人々に混同されやすいことが指摘されているが、そうだとすると、運命論の要素の有無により、決定論がウェルビーイングなどに与える影響も変化するかもしれない。ただし、運命論による効果も、かならずしも一貫して観察されたわけでない。申請者はこれまでに、自由意志に関する人々の概念分析の研究知見をふまえ、決定論やウェルビーイングとの関係性を検討してきたが、これらの関係性を議論するうえでは、決定論に関する人々の概念も分析する必要があることを、本研究の知見は示唆しているといえるだろう。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 10件）

1. 著者名 Sakurai, R., & Watanabe, T.	4. 巻 1
2. 論文標題 Grit as a determinant of success in the teacher recruitment examination	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Proceedings of the 9th International Conference on Data Science and Institutional Research	6. 最初と最後の頁 345-350
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺匠・櫻井良祐	4. 巻 1
2. 論文標題 へき地校体験実習が学生の教員志望動機や成績にもたらす影響	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 令和2年度日本教育大学協会研究集会発表資料集	6. 最初と最後の頁 140-143
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 櫻井良祐・渡辺匠	4. 巻 1
2. 論文標題 教育実習におけるバーンアウトが教員志望に与える影響	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 第9回大学情報・機関調査研究集会論文集	6. 最初と最後の頁 50-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Watanabe, T., Ota, K., Karasawa, K.	4. 巻 17
2. 論文標題 How do Japanese conceptualize free will?: A case study of the free description method	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Human Environmental Studies	6. 最初と最後の頁 79-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.4189/shes.17.79	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 櫻井 良祐・渡辺 匠	4. 巻 1
2. 論文標題 Gritの教学IRへの応用可能性の検証 入試改革・教育改革の観点から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 第8回大学情報・機関調査研究集会論文集	6. 最初と最後の頁 104-109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 渡辺匠・櫻井良祐	4. 巻 1
2. 論文標題 教員養成系大学における教員志望動機の回復と規定因	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 第7回大学情報・機関調査研究集会論文集	6. 最初と最後の頁 26-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 櫻井良祐・渡辺匠	4. 巻 27
2. 論文標題 活発な精神的活動に対する意志力の暗黙理論尺度 (Implicit Theory of Willpower for Strenuous Mental Activities Scale: ITW-M) 日本語版の作成	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 パーソナリティ研究	6. 最初と最後の頁 259-262
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2132/personality.27.3.9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 竹橋洋毅・樋口収・尾崎由佳・渡辺匠・豊沢純子	4. 巻 89
2. 論文標題 日本語版グリット尺度の作成および信頼性・妥当性の検討	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 心理学研究	6. 最初と最後の頁 580-590
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4992/jjpsy.89.17220	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 櫻井良祐・渡辺匠	4. 巻 1
2. 論文標題 やり抜く力は入学者選抜に応用可能か？ 簡易版Grit Gridを用いた客観的なGrit測定の試み	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 第7回大学情報・機関調査研究集会論文集	6. 最初と最後の頁 26-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 渡辺匠・櫻井良祐・樋口収・半澤礼之・蛭田眞一	4. 巻 1
2. 論文標題 教育場面における自由意志信念の効果 実習後の大学生を対象とした実証的検討	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 第6回大学情報・機関調査研究集会論文集	6. 最初と最後の頁 106-111
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ryosuke Sakurai, Takumi Watanabe, Kaori Karasawa	4. 巻 15
2. 論文標題 The effect of goal attainability on conserving regulatory resources	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Human Environmental Studies	6. 最初と最後の頁 87-92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4189/shes.15.87	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 櫻井良祐・渡辺匠・樋口収・半澤礼之・蛭田眞一	4. 巻 1
2. 論文標題 やり抜く力が学びを促す Gritが学業達成に与える影響	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 第6回大学情報・機関調査研究集会論文集	6. 最初と最後の頁 112-117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Sakurai, R., & Watanabe, T.
2. 発表標題 Grit as a determinant of success in the teacher recruitment examination
3. 学会等名 The 9th International Conference on Data Science and Institutional Research (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 渡辺匠・櫻井良祐
2. 発表標題 へき地校体験実習が学生の教員志望動機や成績にもたらす影響
3. 学会等名 令和2年度日本教育大学協会研究集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 櫻井良祐・渡辺匠
2. 発表標題 教育実習におけるバーンアウトが教員志望に与える影響
3. 学会等名 第9回大学情報・機関調査研究集会論文集
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 櫻井良祐・渡辺匠
2. 発表標題 Gritの教学IRへの応用可能性の検証 入試改革・教育改革の観点から
3. 学会等名 第8回大学情報・機関調査研究集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 渡辺匠・櫻井良祐
2. 発表標題 教員養成系大学における教員志望動機の回復と規定因
3. 学会等名 大学情報・機関調査研究集会2018
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 櫻井良祐・渡辺匠
2. 発表標題 活発な精神的活動に対する意志力の暗黙理論尺度（ITW-M）日本語版の作成
3. 学会等名 日本心理学会第82回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 櫻井良祐・渡辺匠
2. 発表標題 やり抜く力は入学選抜に活用可能か？ 簡易版Grit Gridを用いた客観的なGrit測定の試み
3. 学会等名 大学情報・機関調査研究集会2018
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渡辺匠・櫻井良祐・樋口収・半澤礼之・蛭田真一
2. 発表標題 教育場面における自由意志信念の効果：実習後の大学生を対象とした実証的検討
3. 学会等名 大学情報・機関調査研究集会2017
4. 発表年 2017年



1. 発表者名 櫻井良祐・渡辺匠・樋口収・半澤礼之・蛭田真一
2. 発表標題 やり抜く力が学びを促す：Gritが学業達成に与える影響
3. 学会等名 大学情報・機関調査研究集会2017
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------